

<2019年度 ハローオリンピック事業>
オリンピック教室
実施報告書

埼玉県 鶴ヶ島市立鶴ヶ島中学校



「オリンピック教室」の実施にあたって

現行の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和元年5月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 2019年4月～2020年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 80校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目
運動の時間 (50分)



2時限目
座学の時間 (50分)



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

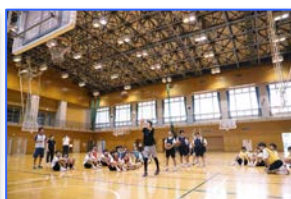
まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

実施内容

■期 日 : 2019年7月10日 (水)

■ク ラ ス : 2年3組 (35名) 、2年4組 (35名)

■オリンピアン : 村上 佳宏 先生 (近代五種) 【出場オリンピック/北京大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (1時限、3時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・自己紹介後、今日はオリンピックバリュー「エクセレンス=挑戦する、頑張る」「フレンドシップ=友情、仲間をつくる」「リスペクト=感謝、ルールを守る」や、近代五種競技についても知ってもらいたいと授業の目的を確認。運動の時間は「元気に楽しみながら挑戦する」「友情を育む」「ルールを守り、感謝をする」ことを約束し、準備体操に移る。
- ・準備体操として、ストレッチをした後、ナンバーコール(数集まり)を実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・レーザーラン(紙コップ積み)を実施。6班に分かれ、積み重ねたコップの段数とゴール順(1位5点、2位4点、3位3点、4位2点、5位1点、6位0点)のポイントの合計点で順位を決定。各回終了後に作戦タイムを設けながら、全3回実施。

4. まとめ



- ・今日は、近代五種を体験してほしくて、レーザーランを模した運動に取り組んでもらった。オリンピックバリューについて振り返り、座学で詳しく説明すると予告し、運動の時間に感じたことも振りかえるので覚えておいてほしいと伝え、授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（2時限、4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・近代五種で北京大会に出場し、現在は指導者として後輩の育成に携わっていると自己紹介した後、映像を見せながら近代五種の特徴やルールについて説明。
- ・村上先生の経験を通じて感じたオリンピックバリューについて、「エクセレンス＝卓越、挑戦する、一生懸命頑張る、努力する」、「フレンドシップ＝友情仲間、協力」、「リスペクト＝敬意/尊重、感謝、ルールを守る」と説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問：運動の時間を振り返り、考えたり実践したりしたことをオリンピックバリューに当てはめて考えてみよう。
- 発表：「倒すかもしれないけれど、高く積むことに挑戦した」「1度やると決めたことは必ず一生懸命頑張る」(エクセレンス)
 「仲間と協力し、高く積み上げた」「勝ったチームにも拍手ができた」「皆と話し合って作戦を決めた」「仲間の応援をした」(フレンドシップ)
 「ルールを守り、人を責めなかった」「ミスしても責めず、助け合った」「準備してくれたことに感謝する」(リスペクト)

4. まとめ



- ・人生の中で、苦しい時や悲しい時、つらい時は必ず訪れる。努力しても記録が伸びなかったり、練習を続けるのが嫌になったりすることがあるかもしれないが、決して夢や目標を見失わないように進んでほしい。友達や先輩、先生との縁を大事にすることで、深い絆を結ぶことができ、その絆が挑戦する気持ちを後押ししてくれる。オリンピックバリューはスポーツ以外でも、皆の日常生活の中でも生きてくるので、オリンピックバリューを忘れずに、夢や目標に向かって一歩ずつ前に進んでほしいと伝え、授業終了。

実 施 内 容

■期 日 : 2019年7月11日 (木)

■ク ラ ス : 2年1組 (34名)、2年2組 (34名)

■オリンピアン : 宮下 純一 先生 (水泳/競泳) 【出場オリンピック/北京大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (1時限、3時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・自己紹介後、東京2020大会では、鶴ヶ島市にもマンマーを始め海外からも大勢の人達が来ると思う。今日は、少しでもオリンピックを身近に感じてもらうなら、オリンピックに向けて盛り上がっていくように楽しんで過ごしていきましょうと話す。
- ・準備体操として、ストレッチ、ランニングを行った後、タッチ鬼を実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・大縄跳び(90秒間×3回)を実施。跳び方は全員跳びまたは8の字跳びから選択し、引っかけたら1から数え直し、連続で跳べた回数を競う。
- ・1回目、2回目(予選)の合計得点が高かった2チームで3回目(決勝)を行う。

4. まとめ



- ・運動の時間に取り組んでもらったように限られたルールの中でいかに最大限のパフォーマンスをするかを考えることで、勝つことができる。これはスポーツに限らず当てはめることができる。座学の時間では、宮下先生がどういふ思いでオリンピックにチャレンジしたか、皆とオリンピック選手に共通することがあるのかを考えながら、オリンピックを身近に感じてもらいたいと予告し、授業終了。

■ 授業のながれ： 座学の時間（2時限、4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



- ・競泳でオリンピックに出場するためには、日本選手権で2位以内に入り、かつ派遣標準記録を突破しなければならないと話し、映像を見せながら北京大会までの歩みについて説明。
- ・宮下先生が感じたオリンピックバリューについて、「エクセレンス＝卓越、ベストを尽くす、一生懸命頑張る、諦めない、努力する」、「フレンドシップ＝友情、チームワーク、協力、仲間、お互いを理解する」、「リスペクト＝敬意/尊重、感謝、フェアプレー、ルールを守る」と説明。

3. グループワーク



- 発問：日常生活を振り返り、オリンピックバリューを感じた出来事について書き出してみよう。
- 発表：「勉強が出来なかったけど、努力してできる様になった」「部活で県大会の標準記録に向けて全力で取り組む(エクセレンス)
「自分が勝った時に友達が褒めてくれた」「仲間がミスしても責めない」「バスケットで声を出し合いパスを繋ぐ(フレンドシップ)
「勉強に付き合ってくれた周りの人に感謝」「友達の作品が選ばれたときに一緒に喜んだ」「試合で審判に礼儀正しくする(リスペクト)」

4. まとめ



- ・東京2020大会では、メダルの数ばかりを気にするのではなく、オリンピックに出場するまでどのような練習を積み重ねてきたか、選手の背景を想像しながら観戦してほしい。皆で盛り上げたい、支えたいという気持ちを持たなければ、オリンピックは成功しない。オリンピックをただ通り過ぎていくだけのものにならないためにも、選手の活躍だけではなく、大会を支える皆も成功の鍵になるので、一緒にオリンピックを開催してよかったと言えるようにしたい。オリンピックバリューを忘れずに、今後の人生に活かしてほしいと伝え、授業終了。

■ 集合写真
2年1組



2年2組



■ 集合写真
2年3組



2年4組



■ 記念品贈呈

2年1組



2年2組



2年3組



2年4組



■ 修了書贈呈

